

交野市埋蔵文化財調査報告 2006-I

平成 18 年度

交野市埋蔵文化財発掘調査概要

2007. 3

交野市教育委員会

例　　言

- 1 本書は、交野市教育委員会が平成 18 年度国庫補助事業（事業総額 1,000,000 円 国庫補助率 50% 市負担率 50%）として計画・実施した交野市内における埋蔵文化財発掘調査の概要報告である。
- 2 発掘調査は交野市教育委員会が調査主体となって実施した。
- 3 本書で使用した方位は、磁北方位である。

目 次

例 言

目 次

第1章	埋蔵文化財発掘調査の状況	1
第1節	交野市の位置と環境	1
第2節	遺跡の分布状況	1
第3節	調査の状況	1
第2章	発掘調査報告	10
第1節	交野郡衙跡	10
挿 図		
第1図	遺跡分布図	9
第2図	調査地位置図(交野郡衙跡 06-1)	10
第3図	掘削地位置図	10
第4図	遺構平面図	11
第5図	調査地位置図(交野郡衙跡 06-3)	11
第6図	掘削地位置図	11
第7図	遺構平面図	12
第8図	調査地位置図(交野郡衙跡 06-8)	12
第9図	掘削地位置図	12
第10図	その他の調査地及び掘削地位置図(1)	13
第11図	その他の調査地及び掘削地位置図(2)	14
第12図	その他の調査地及び掘削地位置図(3)	15
第13図	その他の調査地及び掘削地位置図(4)	16
第14図	その他の調査地及び掘削地位置図(5)	17

第 15 図 調査地及び掘削地位置図(6).....	18
第 16 図 調査地及び掘削地位置図(7).....	19

挿 表

第 1 表 平成 18 年度発掘調査一覧(平成 17 年度届出分).....	2
第 2 表 平成 18 年度発掘調査一覧 (平成 18 年度届出分)	3~8

図 版

図版 1 交野郡衙跡 2006-1 次 第 1 トレンチ	
図版 2 交野郡衙跡 2006-1 次 第 2 トレンチ	
図版 3 交野郡衙跡 2006-1 次 第 2 トレンチピット出土状況	
図版 4 交野郡衙跡 2006-3 次 トレンチ (北側から)	
図版 5 交野郡衙跡 2006-3 次 トレンチ (西側から)	
図版 6 交野郡衙跡 2006-8 次 トレンチ全景	

報告書抄録

第1章 埋蔵文化財発掘調査の状況

第1節 交野市の位置と環境

交野市は、大阪府の東北部、大阪と京都のほぼ中間に位置する。東は生駒山系を境にして奈良県生駒市と、西は寝屋川市、南は四条畷市、北は枚方市に接している。

大阪市、京都市、奈良市いずれまでの距離が約20kmで、市の東部は関西文化学術研究都市区域となっている。市域は、東西5.4km、南北6.8km、面積25.55km²で、そのおよそ半分を山地が占めている。山地部は、風化の進んだ花崗岩からなり、多くの急渓流が分布し、平野部は洪積層および沖積層から成り立っている。河川は寝屋川流域の傍示川のほかは、天野川流域でいずれも淀川水系に属する。

土地利用としては、市域約半分を占める山地のうち、一部が宅地化しているものの国定公園をはじめとする土地利用規制や府民の森として植生が保持されている。平野部は宅地、鉄道駅周辺や幹線道路沿道付近に商業業務地として利用され、工業地は平野部でも計画的に整備された星田北、幾野地区における工場適地に集積している。人口約8万人規模の都市である。

第2節 遺跡の分布状況

周知の遺跡は約67箇所を数える。これらの遺跡の大部分は、交野が原と呼ばれる台地部や生駒山地の山麓部分にある。大阪府下でも屈指の古い石器が出土した旧石器・縄文時代の神宮寺遺跡をはじめ、弥生時代～中世・近世の私部城遺跡、上の山遺跡、森遺跡、天田神社遺跡などの集落遺跡、前期古墳の森古墳群、中期の交野車塚古墳群や後期の倉治古墳群、寺古墳群などの古墳、近世の平城である私部城跡などがある。また中世・近世の東高野街道の街道筋にもあたっている。

第3節 調査の状況

交野市教育委員会では平成18年4月1日から平成19年2月28日に至る間、交野郡衙跡他23件の補助事業に係る発掘調査を実施した。文化財保護法93条に基づく埋蔵文化財の届出件数は、平成19年2月28日現在で154件であり、昨年の同時期における届出件数が125件であることから、かなり届出件数が増加していることになる。ここ数年のデーターでも届出件数は、増加傾向を示している。

工事の種別では、個人住宅建設が全体の3割、分譲住宅建設が6割、その他1割となっている。件数は少ないものの1,000m²を超える面積の宅地造成が増えてきており、その後分譲住宅等で提出される届出が増加してきたのが、分譲住宅建設増加の理由と考えられる。

遺跡別に見てみると届出件数の最も多かったのは、東倉治遺跡の64件、ついで交野郡衙跡の27件、森遺跡の15件、星の森遺跡の10件、廃安養寺の9件と続く。特に東倉治遺跡、廃安養寺の場合は、先程述べた分譲住宅建設に伴う届出が大半を占めていた。今後もこのような傾向が引き続き見られるものと思われる。なお届出の内訳は、発掘調査23件、立会調査5件、慎重工事124件となっている。

今年度補助事業に係る確認調査の対象となった遺跡は、交野郡衙跡、門ノ木・坊領遺跡、森遺跡、ハセデ遺跡、私部城跡、東倉治遺跡の6遺跡23件である。このうち遺構確認のため調査範囲を広げた遺跡は交野郡衙跡2006-1次調査のみであり、調査内容については、P10~P12に記述した。各調査区の確認調査の詳細については別に一覧表を記載する。

	調査日	遺跡名	調査地	調査内容
1	18.5.8 2006-1次	森遺跡 私市2丁目 1178-6、-48の 一部、 1178-49		調査地西側に約0.5×1.3mのトレ ンチを設定し、重機にて約1.1m の深さまで掘削し、精査を行なつ た。表土約0.4m、第2層約0.3 mが暗灰色シルト、第3層約0.15 mが暗灰色粘土、第4層約0.15m がオリーブ灰色シルトであった。2 層以下は湿地特有の層であり、第 4層は更に深く続くと考えられる。 遺構・遺物は検出しなかった。

第1表 平成18年度発掘調査一覧（平成17年度届出分）

平成 18 年度届出分

	調査日	遺跡名	調査地	調査内容
2	18. 5. 31	森遺跡 2006-2 次	森南 3 丁目 116-5	調査地北側に約 2.0×1.8m のトレーナーを設定し、重機にて約 1.3m の深さまで掘削した後、人力にて精査を行なった。地表下約 0.6m までは黒褐色の盛土、第 2 層約 0.2m は黒色耕作土、第 3 層約 0.3m は黄灰色砂礫を含んだシルトが堆積し、第 4 層約 0.2m は灰黄褐色砂礫を含んだシルト層が堆積する。この下層に遺物包含層と考えられる褐灰色の粘質シルトが続く。遺構・遺物は検出しなかった。
3	18. 6. 29	森遺跡 2006-3 次	私市 2 丁目 1178-46	調査地北東側に約 1.4×2.0m のトレーナーを設定し、重機にて約 1.0m まで掘削した後、人力にて精査を行なった。地表下約 0.6m は盛土で、第 2 層約 0.2m は黒褐色砂礫混シルトの耕作土、第 3 層約 0.3m は褐灰色砂礫混粘質シルト、第 4 層約 0.2m は遺物包含層と考えられる黒褐色砂礫混シルトが堆積する。この下層にぶい黄色砂礫混シルトが堆積し、さらに下に続く。遺構・遺物は検出しなかった。
4	18. 6. 29～ 18. 7. 03	交野郡衙跡 2006-1 次	郡津 4 丁目 221-1	(詳しくは本書 10 ページ)
5	18. 7. 6	森遺跡	私市 2 丁目	調査地北西側に約 1.9×2.6m のト

		2006-4 次 ~	1191-7	レンチを設定し重機にて約 1.3m 堀削した。第1層は盛土、第2層は暗黒色シルトの耕作土が堆積する。遺構・遺物は検出しなかった。
6	18. 7. 6	交野郡衙跡 2006-2 次	郡津3丁目 1443番の一部	調査地西側に約 0.7×2.45m のトレンチを設定し、重機にて約 0.6m 堀削した。第1層は黄褐色砂層、第2層は青灰色シルトが堆積する。遺構・遺物は検出しなかった。
7	18. 7. 25 ~ 18. 7. 27	森遺跡 2006-5 次	森南1丁目 292-1	調査地中央部に約 1.0×1.6m のトレンチを設定し、重機にて約 1.1m 堀削した。第1層は黒色シルト、第2層は灰色シルト、第3層は黄褐色砂礫、第4層は明黄褐色砂礫を多く含む地山になった。
8	18. 8. 7 ~ 18. 8. 9	交野郡衙跡 2006-3 次	郡津1丁目 290-1、295-1、296-1、297	(詳しくは本書 11 ページ)
9	18. 8. 25	森遺跡 2006-6 次	森南1丁目 260、272	調査地北側に約 4.0×0.9m の第1トレンチ、北東側に約 4.1×1.0m の第2トレンチを設定し、重機にて約 0.8m 堀削した後、精査を行なった。第1層は灰色の耕土、第2層は灰褐色シルト混砂層、第3層は灰色砂礫とマンガンを含む土である。第3層下層が遺物包含層と考えられる。遺構・遺物は検出しなかった。
10	18. 8. 31	森遺跡 2006-7 次	森北2丁目 148-5	調査地北西側に約 1.5×2.0m のトレンチを設定し、人力にて約 0.5m

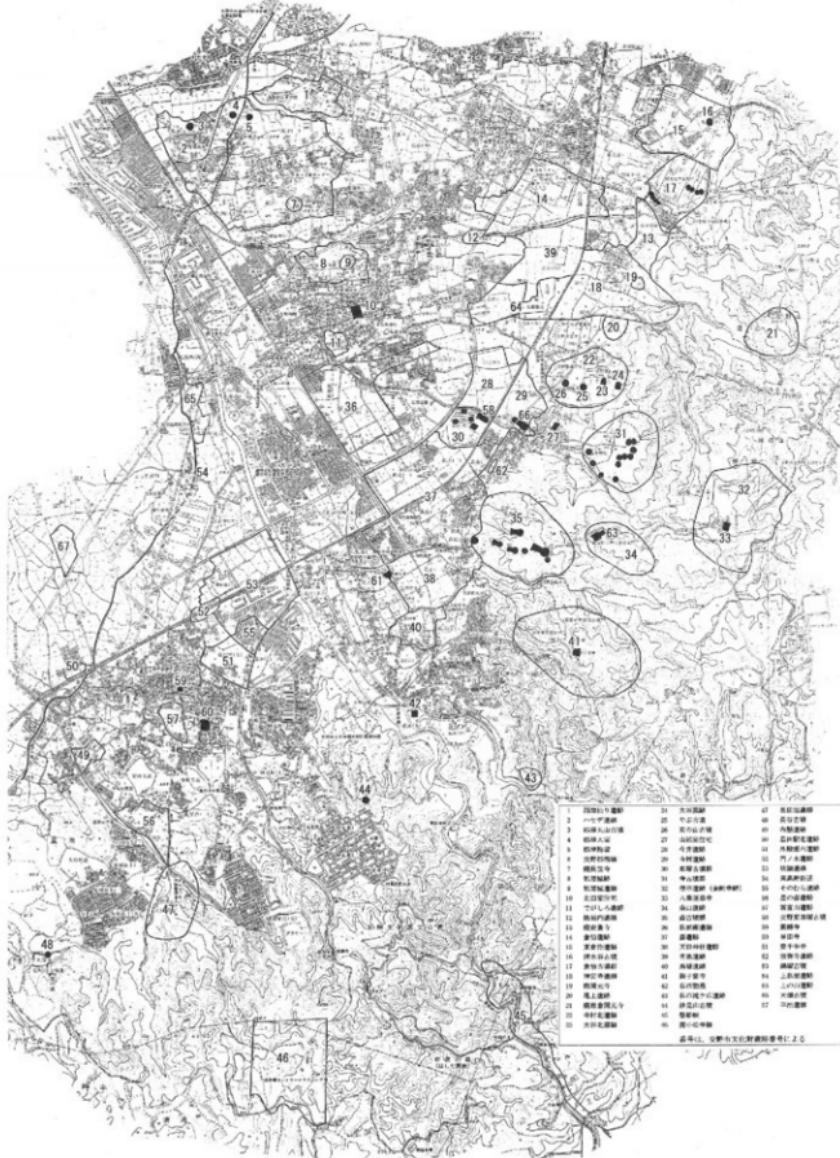
				掘削した後、精査を行なった。地表下約 0.3m は拳大の石を多く含む茶褐色の改良土、第 2 層約 0.2m はオリーブ黒色の水田耕土層である。第 3 面でピットを検出したが、旧構造物の掘り込みと考えられる。トレーニング東側を更に約 0.4m 掘削したが遺構・遺物は検出しなかった。
11	18. 9. 11	交野郡衙跡 2006-5 次	郡津 1 丁目 178 番地	調査地北西に約 1.1×2.3m の第 1 トレーニング、北東に約 1.0×2.5m の第 2 トレーニングを設定し、重機にて約 0.7m 掘削した後、精査を行なった。第 1 層は黒褐色の盛土、第 2 層は褐色砂礫混シルト、第 3 層はにぶい黄橙砂礫が堆積する。両トレーニングとともに第 4 面より溝状遺構を 1 条検出した。遺物は検出しなかった。
12	18. 9. 11	交野郡衙跡 2006-6 次	郡津 2 丁目 1787 の一部	調査区東側に約 1.1×2.1m のトレーニングを設定した後、人力にて約 0.6 m 掘削し精査を行なった。耕作土が約 0.2m、盛土が約 0.4m 堆積しており、約 0.6m の地点で地山に到達したが、北側半分は上層の搅乱を受けていた。遺構・遺物は検出しなかった。
13	18. 10. 10	私部城跡 2006-1 次	私部 3 丁目 1665-1	調査区内に約 1.1×2.7m の大きさのトレーニングを設定し、重機にて約 0.9m 掘削した後、人力にて精査を行なった。黄灰色砂質土の表土が約

				0.6m堆積し、その下に地山の鈍い黄橙色砂層の間に薄く明褐色粘質土層と黄橙シルトブロックを含む灰黄褐色粘質土層が部分的に堆積していた。遺構としては溝1条を検出したが遺物は検出しなかった。
14	18.10.19	ハセデ遺跡 2006-1次	郡津5丁目 890-1	調査区北側に約1.2×2.4mのトレンチを設定し、重機にて約1.0m掘削を行なった。全て盛土であり、トレンチ内北側地表下約0.7mで黄褐色粗砂がブロック状に入り、その下に水田耕土と見られる黒褐色の粘質土が一部みられた。遺構・遺物は検出しなかった。
15	18.10.23	門ノ木・坊領 遺跡 2006-1次	藤が尾6丁目 184-1番地外	調査地東側に約1.8×2.1mのトレンチを設定し、重機にて約1.2m掘削を行なった。地表下約0.6mは茶褐色砂層であり、第2層は黒灰色シルトの耕作土が約0.2m堆積していた。第3層は黄褐色粘土が約0.4m堆積し、この層はさらに下に続く。遺構・遺物は検出しなかった。
16	18.11.21	東倉治遺跡 2006-1次	東倉治3丁目 2091-3	調査地北側に約1.8m×3.5mの第1トレンチ、西側に約1.2×3.0mの第2トレンチを設定し、重機にて第1トレンチを約1.8m、第2トレンチを約2.4m掘削した。両トレンチともに砂が堆積し、下層ではラミナ

				を確認した。調査地は北に向かって低くなり、南側の山地より土砂が流入し、堆積したものと考えられる。遺構・遺物は検出しなかった。
17	18. 12. 21	交野郡衙跡 2006-7 次	郡津 2 丁目 1506-9 の一部	調査地西側に約 2.0×1.1 m のトレーヌチを設定し、重機にて約 0.8m 剥削したのち人力にて精査を行なった。地表下約 0.25m は、にぶい黄褐色砂礫が堆積し、第 2 層は褐灰色シルト混砂礫が約 0.2m、第 3 層は緑灰色と褐色の砂礫混シルトが混入したにぶい黄橙色砂礫混粘質シルトが約 0.25m、第 4 層には黒褐色砂礫混シルトが続いていた。遺構・遺物は検出しなかったが、南隣地より地表下約 0.8m で遺構・遺物が検出されており、第 4 層下より遺構面が検出される可能性が高い。
19	18. 12. 21	交野郡衙跡 2006-8 次	郡津 2 丁目 1506-8. -9 の一部	(詳しくは本書 12 ページ)
20	19. 1. 22	交野郡衙跡 2006-9 次	郡津 3 丁目 1002-5	調査地東側に約 1.1×2.3 m、約 1.0 $\times 1.5$ m の 2 トレーヌチを設定し、重機にて約 1.4m 剥削を行なった。両トレーヌチとも明黄褐色と灰白色の粗砂が約 1.4m 堆積し、第 2 層に旧耕作層の黒褐色シルトが堆積していた。遺構・遺物は検出しなかった。
21	19. 1. 22	森遺跡	森南 1 丁目	調査地北側に約 1.1×2.0 m のトレ

		2006-8 次	134	ンチを設定し、重機にて約 1.3m 剥削後人力にて精査した。地表下約 0.7m は淡黄色砂質土、第 2 層約 0.3m は炭混の黒褐色シルト、第 3 層約 0.3m は褐色砂質土が堆積していた。遺構・遺物は検出しなかった。
22	19. 2. 13	交野郡衙跡 2006-10	郡津 4 丁目 595-1、-5 603-1、-5	調査地中央に約 1.1×2.5m、東側に約 2.5×1.2m のトレーナーを設定し、重機にて約 2.0m 剥削を行なった。各トレーナーとも第 1 層が砂礫混シルト、第 2 層が拳大の石混じり砂礫層、第 3 層・4 層が明黄褐色砂礫層、第 5 層が明黄褐色粗砂であった。第 2 トレーナーでは第 5 層下よりにぶい黄褐色細砂が確認できた。第 3 層以下は自然堆積と考えられる。また調査地西端擁壁部では、約 2.0m 剥削したところで旧耕作土となつた。西側の水路整備時に大規模に造成されたものと考えられる。遺構・遺物は検出しなかった。
23	19. 2. 27	交野郡衙跡 2006-11	郡津 2 丁目 1847-1	調査地南側に約 1.3m×0.7m のトレーナーを設定した後、人力にて約 0.9m 剥削を行なった。全て盛土であったため、トレーナー内西側をさらに約 0.2m 剥削したところ、地山らしき面を検出した。遺構・遺物は検出しなかった。

第 2 表 平成 18 年度発掘調査一覧(平成 18 年度届出分)



第1図 遺跡分布図(1:30,000)

第2章 発掘調査報告

第1節 交野郡衙跡

調査の概要

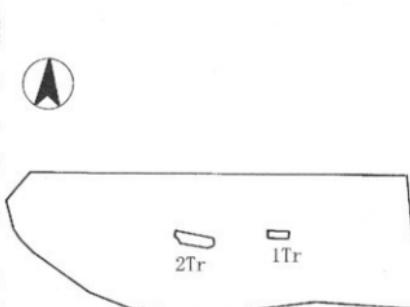
①交野郡衙跡 2006-1次調査（郡津4丁目221-1）

宅地造成に伴う発掘調査である。調査地中央部に約3.5×1.2mのトレンチ（第1トレンチ）、さらに西側へ約8mの地点に6.5×1.8mのトレンチ（第2トレンチ）を設定し、重機にて約0.8m掘削した後、人力による掘削及び精査を行った。

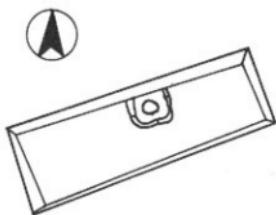
層位は、第1層が黒褐色（10YR3/1）の水田耕作層で約0.25m堆積し、その下第2層は、褐色（10YR4/1）の粘質シルトが約0.2m堆積し、第3層は黄色（10YR6/6）砂礫を含んだシルト層が約0.1m堆積し、第4層に褐色（7.5YR4/1）の砂礫が混入したシルト層が約0.25m堆積していた。第4層は遺物包含層であり、第1トレンチからは土師器・須恵器片を、第2トレンチからは上師器片を検出した。遺物は実測不可能な細片のみであった。また包含層を取り除くと第1トレンチより柱穴を1基、第2トレンチより柱穴4基と溝状遺構1基を検出した。柱穴は一辺が約0.5mの四角い穴で、中には底部に0.1×0.15mの大きさの石が敷かれているものもあった。柱間の間隔は、約1.1～1.2m程であった。



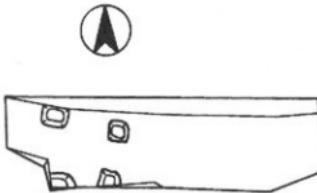
第2図 調査地位置図(1:3,500)



第3図 掘削地位置図(1:400)



1Tr

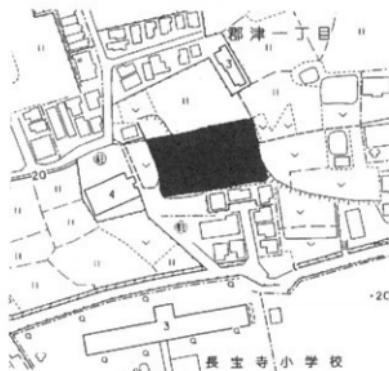


2Tr

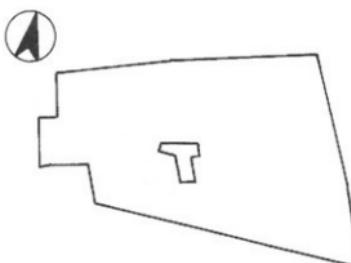
第4図 遺構平面図(1:50)

②交野郡衙跡 2006-3 次調査（郡津1丁目 290-1、295-1、296-1、297）

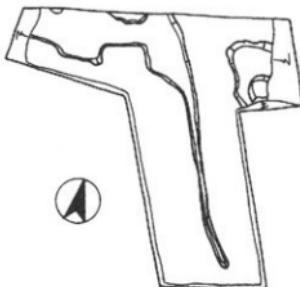
宅地造成、分譲住宅建設に伴う発掘調査である。調査地中央部に東西に約6.5m、南北に約4.5m、幅約2.0mのT字のトレーナーを設定し、重機にて約0.5m掘削したのち、人力にて掘削及び精査した。その結果、北西から南に走る溝1条及び調査地東隅でピット1基を検出した。層位は、第1層がオリーブ灰色砂質土（耕作土）であり、第2層が黄橙色シルト層、第3層が黄褐色マンガン土を含む砂礫混じりのシルト層、第4層が黄褐色の粘質土、第5層が褐色の砂礫混じり粘質土であった。第3層からは土師器、須恵器、陶磁器、瓦の小片が出土し、ピット内埋土よりは土師器小片が出土した。第3層～5層は不安定な層で、遺物も他から流入してきたものと考えられる。



第5図 調査地位置図(1:3,500)



第6図 掘削地位置図(1:400)



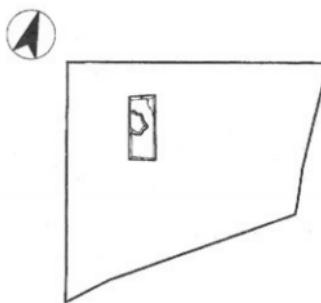
第7図 遺構平面図(1:100)

③交野郡衙跡 2006-8次調査（郡津2丁目1506-8、-9の各一部）

分譲住宅建設に伴う発掘調査である。調査地西側部分に、約 2.5×1.1 mの大きさのトレンチを設定し、重機にて約0.8mの深さまで掘削した後、人力にて精査を行った。層位は地表下約0.25mまでは、にぶい黄褐色(10YR5/3)の砂礫層、第2層は、褐色(10YR4/1)の砂礫混じりのシルト層が約0.2m堆積し、第3層は緑灰色と褐色の砂礫混シルトが混ざったにぶい黄橙色(10YR6/4)の砂礫混粘質シルトが約0.2m堆積し、第4層は黒褐色(2.5Y3/1)の砂礫混シルトが約0.15m堆積していた。その下は地山層（赤褐色5YR4/8粗砂混シルト）となり、ピット1基を検出し、この中から瓦器片と土師器片が出土した。



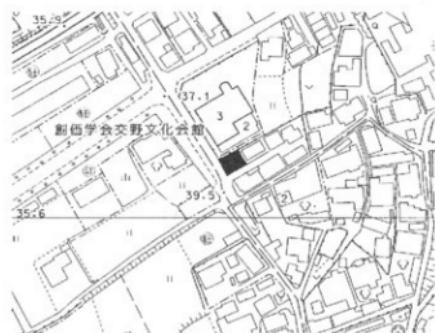
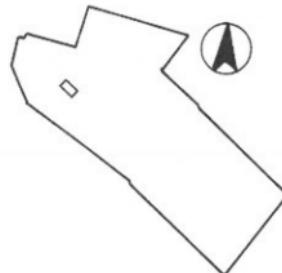
第8図 調査位置図(1:3,500)



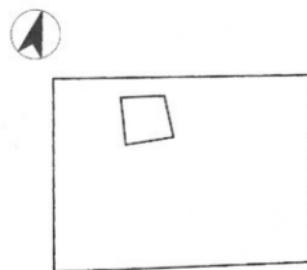
第9図 掘削位置図(1:200)



森遺跡 2006-1 次 S=1/400



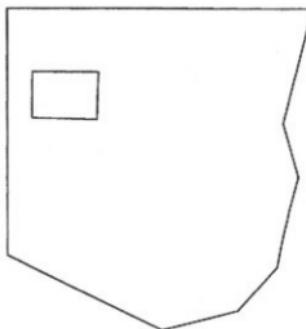
森遺跡 2006-2 次 S=1/200



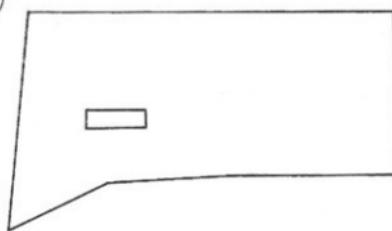
森遺跡 2006-3 次 S=1/200



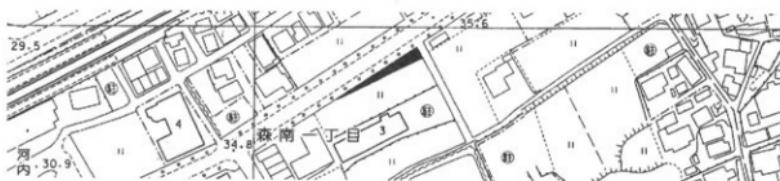
第 10 図 その他の調査地及び掘削地位置図(1)



森遺跡 2006-4 次 S=1/200

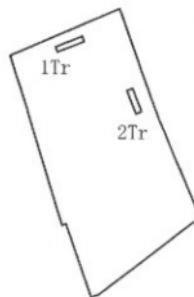


交野郡衙跡 2006-2 次 S=1/200

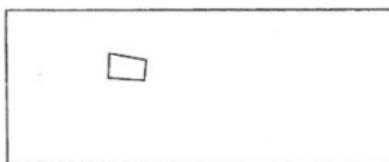


森遺跡 2006-5 次 S=1/200

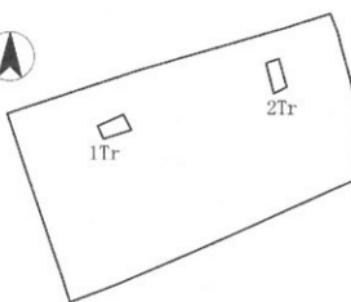
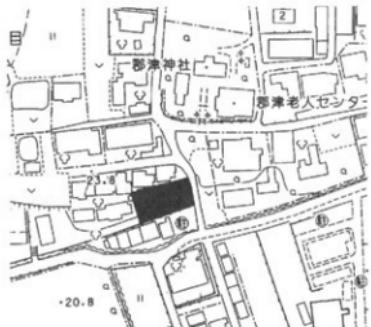
第11図 その他の調査地及び掘削地位置図(2)



森遺跡 2006-6 次 S=1/400

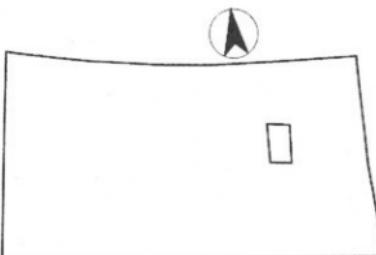


森遺跡 2006-7 次 S=1/250

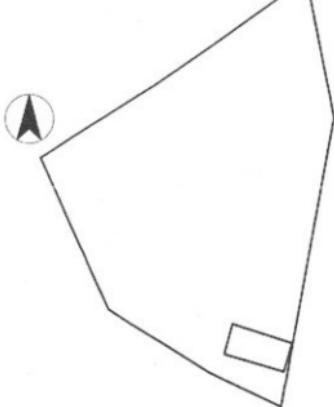


交野郡衙跡 2006-5 次 S=1/400

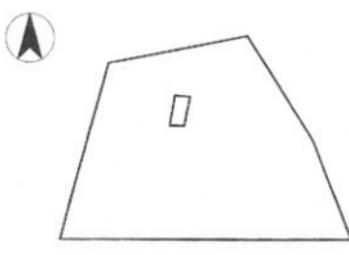
第 12 図 その他の掘削地及び調査地位置図(3)



交野郡衙跡 2006-6 次 S=1/250

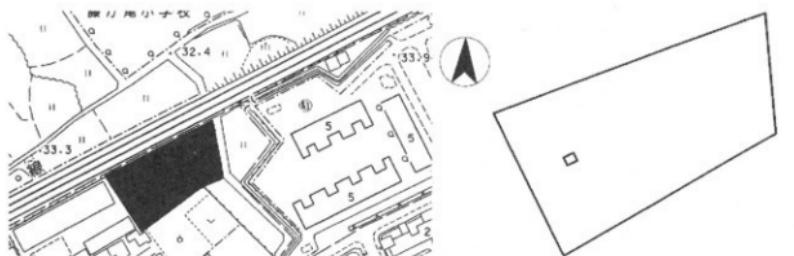


私部城跡 2006-1 次 S=1/200



ハセデ遺跡 2006-1 次 S=1/400

第13図 その他の調査地及び掘削地位置図(4)



門の木・坊領遺跡 2006-1 次 S=1/500



東倉治遺跡 2006-1 次 S=1/400

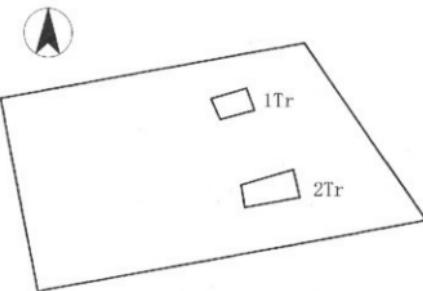


交野郡衙跡 2006-7 次 S=1/200

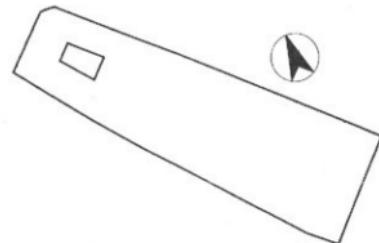
第 14 図 その他の調査地及び掘削地位置図(5)



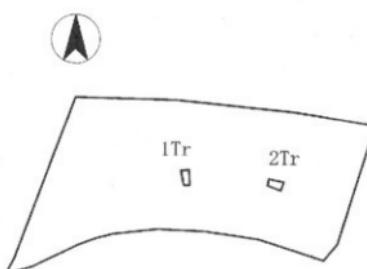
交野郡街跡 2006-9 次 S=1/200



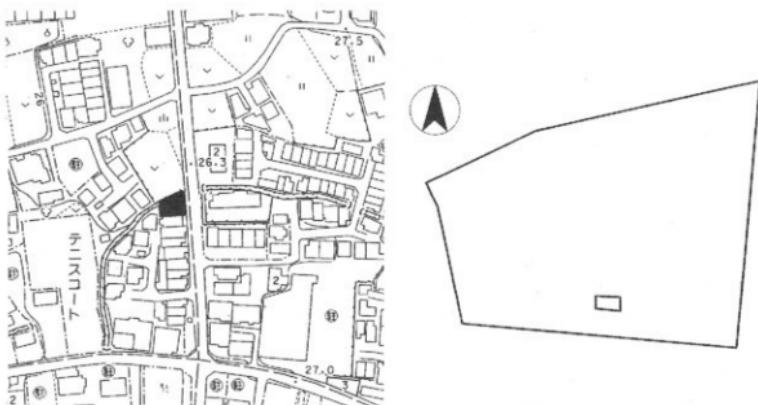
森遺跡 2006-8 次 S=1/250



交野郡街跡 2006-10 次 S=1/400



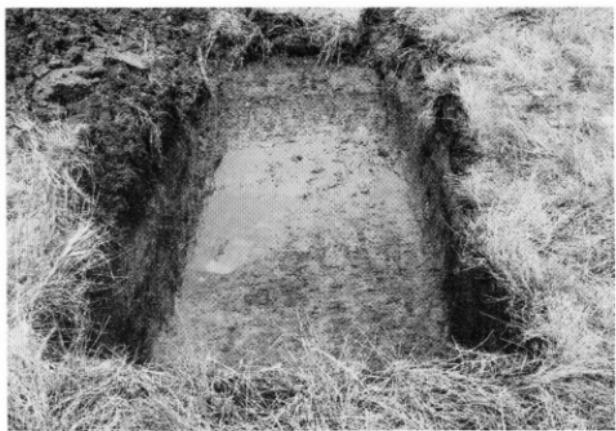
第 15 図 その他の調査地及び掘削地位置図(6)



交野郡衙跡 2006-11 次 S=1/250

第 16 図 その他の調査地及び掘削地位置図(7)

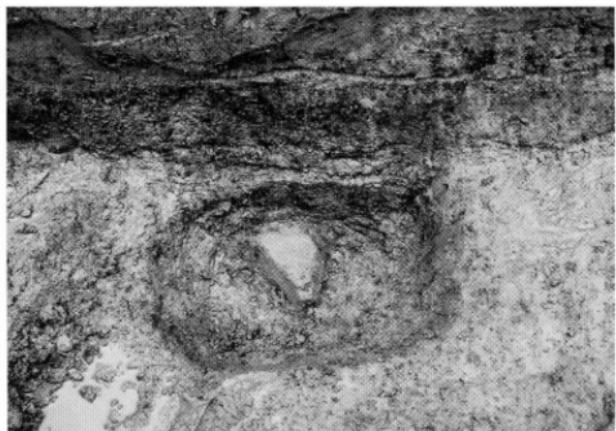
図 版



図版1 交野郡衙跡 2006-1次 第1トレンチ



図版2 交野郡衙跡 2006-1次 第2トレンチ



図版3 交野郡衙跡 2006-1次 第2トレンチ ピット出土状況



図版4 交野郡衙跡 2006-3次トレンチ（北側から）



図版5 交野郡衙跡 2006-3次トレンチ（西側から）



図版6 交野郡衙跡 2006-8次 トレンチ全景

報告書抄録

ふりがな	へいせい18ねんどかたのしまいぞうぶんかざいはつくつちょうさがいよう							
書名	平成18年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要							
副書名								
卷次								
シリーズ名	交野市埋蔵文化財調査報告 2006-I							
シリーズ番号								
編著者名	小川暢子							
編集機関	交野市教育委員会							
所在地	〒576-0052 大阪府交野市私部1丁目1番1号 Tel(072)892-0121							
発行年月日	西暦 2007年3月							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
かたのぐんがあと 交野郡衙跡 2006-1次	かたのこうこう 交野市郡津	27230		34° 47° 30°	135° 49° 41°	2006.6.29 ~ 2006.7.3	15.9	宅地造成
かたのぐんがあと 交野郡衙跡 2006-3次	かたのこうこう 交野市郡津	27230				2006.8.7 ~ 2006.8.9	21.0	宅地造成
かたのぐんがあと 交野郡衙跡 2006-8次	かたのこうこう 交野市郡津	27230				2006.12.21	2.7	分譲住宅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
交野郡衙跡	散布地 集落跡 官衙跡	弥生 古墳 中世	柱穴 溝状遺構	須恵器 土師器				

平成18年度 交野市埋蔵文化財発掘調査概要

発 行 日 2007年3月30日

編集・発行 交野市教育委員会

大阪府交野市私部1丁目1番1号

印 刷 所 京阪工技社

(本報告書は、再生紙を使用しています。)



